

## 全国月間火山概況（平成 28 年 2 月）

口永良部島の新岳では、2015 年 6 月 19 日の噴火後、噴火は観測されていません。

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されていません。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね少ない状態でした。

地殻変動観測では、2015 年 5 月 29 日の噴火後、特段の変化は認められません。

5 月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものの、引き続き噴火の可能性があり、火砕流に警戒が必要です。火砕流の流下による影響が及ぶと予想される屋久島町口永良部島の居住地域（前田地区、向江浜地区）では厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。

噴火に伴う大きな噴石の飛散が予想される新岳火口から概ね 2 km の範囲及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね 2.5 km の範囲では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。新岳火口から半径 1.4 海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがありますので、噴火に警戒してください。

西之島では、2013 年 11 月以降、噴石等を放出する噴火や溶岩の流出が続いていましたが、2015 年 11 月下旬以降はいずれも確認されていません。12 月以降は地表面温度の低下が確認されています。今期間に海上保安庁及び海上自衛隊が実施した上空からの観測でも、観測中に噴火は認められませんでした。

このため、17 日 18 時 00 分に火口周辺警報（入山危険）を切替え、警戒が必要な範囲を火口から概ね 1.5 km の範囲としました。

表面的な活動に低下が認められるものの、これまで 2 年以上活発な火山活動が続いてきたことから、火口から概ね 1.5 km 以内では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

桜島の昭和火口では、5 日 18 時 56 分に爆発的噴火が発生しました。この噴火により、噴煙が火口縁上 2,200 m まで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石が 3 合目（昭和火口から 1,300～1,800 m）まで達しました。同日 19 時 13 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 3（入山規制）へ引き上げました。その後も時々噴火が発生しており、地殻変動観測では始良カルデラの膨張が続いていることから、今後も活発な噴火活動が継続すると考えられます。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

吾妻山では、大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いています。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺（火口から概ね 500 m の範囲）では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

草津白根山では、湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にかけての斜面で熱活動の活発な状態が続いています。東京工業大学によると北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分にも火山活動の活発化を示す変化が観測され、その状態が続いています。

地殻変動観測によると、2014 年 4 月頃から湯釜付近の膨張を示す変動が認められていましたが、2015 年 4 月頃より鈍化しています。

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

浅間山では、2015 年 6 月 19 日の噴火後、噴火は観測されていません。

山頂直下のごく浅い所を震源とする体に感じない火山性地震は引き続きやや多い状態が続いており、火山活動はやや活発な状態で経過しています。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、山頂火口から概ね 2 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

御嶽山では、2014 年 10 月以降噴火の発生はなく、火山活動は緩やかな低下傾向が続いています。一方、火口列からの噴煙活動や、地震活動が続いていることから、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

阿蘇山の中岳第一火口では、17 日 03 時 30 分頃及び 18 日 16 時 57 分に噴火が発生しました。18 日の噴火では、火口から北西約 400 m に噴石が飛散するのを確認しました。その後は白色の噴煙が火口縁上 400 m 以下で経過しました。

火山性微動の振幅は、消長を繰り返しながら概ね大きな状態で経過しました。

中岳第一火口では、時々小規模な噴火が発生していることから、今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してく

ださい。

霧島山（新燃岳）では、14日から火山性地震がやや増加し、23日には日回数155回と多い状態となりました。26日以降は少ない状態となっています。

24日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査及び鹿児島県の協力を得て実施した上空からの観測では、噴気や火口内に蓄積された溶岩の形状や大きさに特段の変化は認められませんでした。赤外熱映像装置による観測では、火口内及び西側斜面の割れ目の熱異常域の分布に変化は見られませんでした。

GNSS連続観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015年1月頃から停滞しています。また、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかに伸びの傾向がみられていましたが、2015年10月頃から停滞しています。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）では、2015年7月頃から振幅の小さな火山性微動が時々発生している他、2015年12月14日以降、硫黄山で新たな噴気が確認され、拡大傾向が続いています。

28日にえびの高原（硫黄山）周辺の浅いところを震源とする火山性地震が増加し、日回数で53回発生しました。

えびの高原（硫黄山）周辺では火山活動が高まっており、噴気や火山ガスなどが噴出し、今後状況によっては小規模な噴火が発生する可能性があるため、28日11時00分に霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。

えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

諏訪之瀬島の御岳火口では、ごく小規模な噴火が時々発生しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

表1 3月8日現在の火山現象に関する警報及び予報の発表状況

特別警報・警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル5（避難）	口永良部島*
火口周辺警報	入山危険	西之島*
	レベル3（入山規制）	桜島
	レベル2（火口周辺規制）	吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、阿蘇山、霧島山（新燃岳）、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄山*、霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）
噴火警報（周辺海域）	周辺海域警戒	福徳岡ノ場*
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、新潟焼山、焼岳、白山、箱根山、富士山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島、九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、アトサヌプリ、雄阿寒岳、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

※印を付した火山は火山現象に関する海上警報も発表中。



図1 火山現象に関する警報を発表中の火山

### 【各火山の活動状況及び警報・予報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、警報・予報事項に変更はありません。

#### 吾妻山[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いています。

16日に陸上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、大穴火口の噴気に変化は見られず、大穴火口周辺の地熱域に拡大等の変化は認められませんでした。また、2015年10月の調査で新たに観測した一切経山西側の登山道沿いの弱い噴気は確認されず、その周辺に地熱域も確認されませんでした。

遠望カメラによる観測では、大穴火口(一切経山南側山腹)の噴気の高さは100m以下で経過しました。

火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

浄土平の傾斜計では、2014年7月頃から西南西側(火口方向側)上がりの変動が観測されていましたが、2015年7月頃から停滞、2015年9月頃から西側下がりの傾向となっています。

GNSS<sup>1)</sup>連続観測では、2014年9月頃から一切経山付近の膨張を示す緩やかな変化がみられていましたが、2015年7月頃から停滞しています。国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、2014年12月頃から一部の基線で山体の膨張を示す地殻変動が観測されていましたが、2015年7月頃から停滞し、10月頃から収縮に転じています。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺(火口から概ね500mの範囲)では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

#### 草津白根山[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にかけての斜面で熱活動の活発な状態が継続

しています。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分及び湯釜湖水の化学成分にも、火山活動の活発化を示す変化が観測され、その状態が継続しています。

遠望カメラによる観測では湯釜北側噴気地帯からは、22日に概ね100mの噴気が認められました。湯釜からの噴気は認められませんでした。

全磁力連続観測及び繰り返し観測で、2014年5月頃からみられていた湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、2014年7月以降停滞しています。

2014年3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加していましたが、2014年8月下旬以降は概ね少ない状態で経過しています。

地殻変動観測によると、2014年4月頃から湯釜付近の膨張を示す変動が認められていましたが、2015年4月頃より鈍化しています。また、湯釜周辺に設置している東京工業大学の傾斜計によると、2014年3月からみられている湯釜付近浅部での膨張を示す変動は、2015年11月頃から停滞傾向が認められません。

湯釜火口から概ね1kmの範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

### **浅間山[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]**

2015年6月19日の噴火後、噴火は観測されていません。

山頂火口からは、白色の噴煙が火口縁上概ね300m以下で経過しています。火映は観測されていません。

3日及び18日に実施した現地調査では、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり200~400トン(前回1月22日:900トン)とやや少ない状態で経過しています。

山頂火口直下のごく浅い所を震源とする体を感じない火山性地震が、2015年4月下旬頃から増加し6月以降多い状態で経過していましたが、12月頃から次第に減少し、やや多い状態で経過しています。発生した地震の多くはBL型地震(低周波地震)でした。火山性微動は、2015年9月以降少ない状態で経過しています。

光波測距観測では、2015年6月頃からの山頂と追分の間でみられていた縮みの傾向が、10月頃から停滞しています。傾斜計では、6月上旬頃から緩やかな変化がみられており、鈍化しながらも継続しています。GNSS<sup>1)</sup>の観測では、5月頃からの浅間山を挟む基線でみられていたわずかな伸びは、10月頃から停滞しています。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、山頂火口から概ね2kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

### **御嶽山[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]**

遠望カメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上概ね600m以下で経過しています。

今期間、火山性地震は少ない状態で経過していますが、2014年8月以前の状況には戻っていません。低周波地震及び火山性微動は観測されていません。傾斜計やGNSS<sup>1)</sup>連続観測で、火山活動の高まりを示す変化は観測されていません。

2014年10月以降噴火の発生はなく、火山活動は緩やかな低下傾向が続いています。一方、火口列からの噴煙活動や地震活動が続いていることから、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

### **箱根山[噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]**

遠望カメラによる観測では、15-1火口や噴気孔、またその周辺の大涌谷温泉供給施設から引き続き噴気が勢いよく噴出しているのを確認しています。大涌谷周辺での噴気の高さは概ね600m以下で経過しています。

18日に実施した現地調査では、これまでの現地調査と同様に15-1火口及び15-2~4の各噴気孔、またその周辺の大涌谷温泉供給施設から引き続き噴気が勢いよく噴出しているのを確認しました。赤外熱

映像装置による観測では、15-1 火口の東側の高温領域を引き続き確認しました。地表面温度分布の状況等に変化はありませんでした。

火山性地震は少ない状態で経過しています。火山性微動は観測されていません。

GNSS<sup>1)</sup> 連続観測並びに気象庁と神奈川県温泉地学研究所が設置している傾斜計及び気象庁の湯河原鍛冶屋の体積ひずみ計では、特段の変動はみられていません。

大涌谷周辺の想定火口域では、噴気や火山ガスに引き続き注意してください。

### **西之島[火口周辺警報(入山危険)及び火山現象に関する海上警報]→17 日に火口周辺警報及び火山現象に関する海上警報を切替(火口周辺警報(入山危険)継続)**

3日に海上保安庁、16日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、観測中に第7火口から噴火は認められませんでした。3日の観測では、西之島北側の海岸線には薄い褐色、その他の西之島周辺の海岸線には青白色の変色水域が、海岸線から沖方向へ幅約200～500mで分布していました。新たな陸地の大きさは、東西約1,940m、南北約1,940m、面積は2.63km<sup>2</sup>で前回(1月19日)の調査時と比べてほぼ変化はありませんでした。

2013年11月以降、西之島では噴石等を放出する噴火や溶岩の流出が続いていましたが、2015年11月下旬以降はいずれも確認されていません。12月以降は地表面温度の低下が確認されています。

これらのことから、17日18時00分に火口周辺警報(入山危険)を切替え、警戒が必要な範囲を火口から概ね1.5kmの範囲としました。

18日に海上自衛隊が実施した上空からの観測では、西之島周辺の海岸線に薄い褐色の変色水が幅約100～300mで分布していました。

表面的な活動に低下が認められるものの、これまで2年以上活発な火山活動が続いてきたことから、火口から概ね1.5km以内では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

### **硫黄島[火口周辺警報(火口周辺危険)及び火山現象に関する海上警報]**

火山性地震はやや少ない状態で経過しています。火山性微動は11回発生しました。火山性微動が観測された時間帯に、その他の観測データに異常は認められませんでした。

GNSS<sup>1)</sup> 連続観測によると、地殻変動は隆起・停滞を繰り返しています。2014年以降は、島の北部ほど隆起が大きい状態が継続しています。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。このことから火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生している地点(ミリオンダラーホール(旧噴火口)等)及びその周辺では噴火に警戒してください。

### **九重山[噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]**

21日に一時的に火山性地震が増加し、22回発生しましたが、それ以外は静穏に経過しています。火山性微動は2006年10月以降、観測されていません。

遠望カメラによる観測では、噴気の状態等に特段の変化は認められませんでした。

22日に実施した現地調査では、噴気の状態や熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。

GNSS連続観測では、坊ガツルー牧ノ戸峠、星生山北山腹ー坊ガツル、星生山北山腹ー直入Aの基線で、2012年頃から伸びの傾向が認められます。

火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、GNSS連続観測によると、一部の基線で伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に留意してください。

### **阿蘇山[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]**

中岳第一火口では、17日03時30分頃及び18日16時57分に噴火が発生しました。それ以外の期間は白色の噴煙が火口縁上400m以下で経過しました。

17日に実施した現地調査及び聞き取り調査では、火口から南東方向の高森町で降灰を確認しました。また、18日に実施した現地調査では、中岳第一火口南西側の火口壁に、17日の噴火に伴うと思われる新たな噴石の飛散を確認しました。阿蘇山で噴火が発生したのは2015年12月25日以来です。

18日の噴火では、乳白色の噴煙が火口縁上1,600mまで上がりました。遠望カメラで火口から北西約400mに噴石が飛散するのを確認しました。18日に実施した現地調査では、火口から北東方向の阿蘇市で降灰を確認しました。

期間中に気象庁が実施した現地調査では、中岳第一火口内に湯だまりを確認しました。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり300～1,500トン（1月：400～1,800トン）と概ね多い状態でした。

火山性微動の振幅は、消長を繰り返しながら概ね大きな状態で経過しました。

中岳第一火口では、時々小規模な噴火が発生していることから、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

### **霧島山（新燃岳）[火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]**

新燃岳では14日から火山性地震がやや増加し、23日には日回数155回と多い状態になりました。月回数は459回と前月（52回）より増加しました。26日以降は少ない状態となっています。

24日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査及び鹿児島県の協力を得て実施した上空からの観測では、噴気や火口内に蓄積された溶岩の形状や大きさに特段の変化は認められませんでした。赤外熱映像装置による観測では、火口内及び西側斜面の割れ目の熱異常域の分布に変化は見られませんでした。

GNSS<sup>1)</sup>連続観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015年1月頃から停滞しています。また、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかに伸びの傾向が認められていましたが、2015年10月頃から停滞しています。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。降雨時には、泥石流や土石流に注意してください。

### **霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）[火口周辺警報（火口周辺危険）]→28日に噴火予報（活火山であることに留意）から引上げ**

えびの高原（硫黄山）周辺では、7日から10日にかけて、継続時間が1～5分程度の振幅の小さな火山性微動が4回発生しました。この火山性微動に伴い、硫黄山の北西方向が一時的に上がり、40～80分程度かけて元に戻る地殻変動が観測されました。

8～10日に実施した現地調査では、火口内南西側の噴気は熱異常域全体から立ち上っていました。赤外熱映像装置による観測では、火口内南西側の熱異常域の東側で、熱異常域の拡大が認められました。硫黄山の火口南側斜面では、引き続き弱い噴気が発生していました。赤外熱映像装置による観測では、火口南側斜面の熱異常域は、前回（1月22日）の調査と比較して、南側に拡大しているのを確認しました。この熱異常域は、24日の現地調査及び28日の気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査でも拡大傾向が認められました。

硫黄山付近では、これまでと同様に明らかに感じる程度の硫化水素臭を確認しました。

28日にえびの高原（硫黄山）周辺の浅いところを震源とする火山性地震が増加し、日回数で53回発生しました。

えびの高原（硫黄山）周辺では、2015年7月頃から振幅の小さな火山性微動が時々発生している他、昨年（2015年）12月14日以降、硫黄山で新たな噴気が確認され、拡大傾向が続いているなど、火山活動が高まっています。噴気や火山ガスなどが噴出し、今後状況によっては小規模な噴火が発生する可能性があるため、28日11時00分に霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。

えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

### **桜島[火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]→2月5日に噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から引上げ**

昭和火口では、5日18時56分に爆発的噴火が発生しました。この噴火により、噴煙が火口縁上2,200mまで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石が3合目（昭和火口から1,300～1,800m）まで達しました。同日19時13分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）へ引き上げました。その後も時々噴火が発生しており、地殻変動観測では始良カルデラの膨張が続いていることから、今後も活発な噴火活動が継続すると考えられます。

6日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が鹿児島県の協力により実施した赤外熱映像装置による上空か

らの観測では、昭和火口近傍及び南岳南東側山腹では、これまでと同様に熱異常域が観測され、特段の変化は認められませんでした。その後、活発な噴火活動が継続し、噴火の回数は 55 回（1 月：なし）で、このうち爆発的噴火の回数は 22 回（1 月：なし）でした。

南岳山頂火口では、8 日と 20 日にごく小規模な噴火が発生し、噴煙が最大で火口縁上 800m まで上がりました。

3 日、6 日、19 日及び 25 日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は 1 日あたり 100～500 トン（1 月：100 トン）と、概ね少ない状態でした。

桜島島内での傾斜計、伸縮計による観測では、2015 年 8 月の急激な変動以降、顕著な山体膨張を示す地殻変動はみられていません。一方で、桜島島内の伸縮計では爆発的噴火の発生前にはわずかな伸張が、発生直後にはわずかな収縮が観測されています。

GNSS による観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張を示す伸びの傾向が引き続きみられます。島内では、2015 年 8 月の急激な山体膨張の変動以降、山体の収縮傾向がみられていましたが、2016 年 1 月頃から停滞しています。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

### **口永良部島[噴火警報(噴火警戒レベル 5、避難)及び火山現象に関する海上警報]**

新岳では、2015 年 6 月 19 日の噴火後、噴火は観測されていません。

遠望カメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上 300m 以下で経過しました。

期間内に実施した現地調査では、火口周辺の地形や噴気等の状況に変化は見られませんでした。また、赤外熱映像装置による観測では、2015 年 3 月頃から 5 月 29 日の噴火前に温度上昇が認められていた新岳火口西側割れ目付近の領域の温度は、引き続き低下した状態でした。

4 日、11 日、19 日に気象庁が実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は 1 日あたり 50～100 トン（1 月：100 トン）と概ね少ない状態でした。

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されていません。

地殻変動観測では、2015 年 5 月 29 日の噴火後、特段の変化は認められません。

5 月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものの、引き続き噴火の可能性があるため、火砕流に警戒が必要です。火砕流の流下による影響が及ぶと予想される屋久島町口永良部島の居住地域（前田地区、向江浜地区）では厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。

噴火に伴う大きな噴石の飛散が予想される新岳火口から概ね 2 km の範囲及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね 2.5 km の範囲では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

新岳火口から半径 1.4 海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがありますので、噴火に警戒してください。

### **諏訪之瀬島[火口周辺警報(噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]**

御岳火口では、ごく小規模な噴火が時々発生しました。同火口では、夜間に高感度カメラで火映を時々観測しました。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、22 日に集落（御岳の南南西約 4 km）で降灰が観測されました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

（火山の順は活火山総覧（第 4 版）による）

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

資料1 全国の火山現象に関する特別警報・警報・予報の発表状況のまとめ（平成28年3月8日現在）

(1) 主な活火山

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	雌阿寒岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2008年9月29日火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年10月17日噴火予報（平常） 2008年11月17日火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年12月16日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年4月10日噴火予報（レベル1、平常） 2015年7月28日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2015年11月13日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	大雪山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	十勝岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2008年12月16日噴火予報（レベル1、平常） 2014年12月16日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2015年2月24日噴火予報（レベル1、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	倶多楽	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2015年10月1日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	有珠山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2008年6月9日噴火予報（レベル1、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	恵山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	東北地方	岩木山	噴火予報（活火山であることに留意）
秋田焼山		噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2013年7月25日噴火予報（レベル1、平常）
岩手山		噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
秋田駒ヶ岳		噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年10月27日噴火予報（レベル1、平常）
鳥海山		噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
栗駒山		噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
蔵王山		噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2015年4月13日火口周辺警報（火口周辺危険） 2015年6月16日噴火予報（活火山であることに留意）
吾妻山		火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2014年12月12日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
安達太良山		噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
磐梯山		噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常）



	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
関東・中部地方 関東・中部地方	那須岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	日光白根山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	草津白根山	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2009年4月10日噴火予報（レベル1、平常）切替 2014年6月3日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	浅間山	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月8日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年2月1日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年2月3日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2009年4月7日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年4月15日噴火予報（レベル1、平常） 2015年6月11日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	新潟焼山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2011年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	焼岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2011年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	御嶽山	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2008年3月31日噴火予報（レベル1、平常） 2014年9月27日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2014年9月28日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2015年1月19日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2015年3月31日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2015年6月26日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	白山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2015年9月2日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	富士山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	箱根山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常） 2015年5月6日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2015年6月30日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2015年9月11日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2015年11月20日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2011年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
新島		噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
神津島		噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
三宅島		噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年3月31日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2015年6月5日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
八丈島		噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
青ヶ島		噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
西之島		火口周辺警報（入山危険）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2013年11月20日火口周辺警報（火口周辺危険） 2014年6月3日火口周辺警報（入山危険） 2014年6月11日火口周辺警報（入山危険）切替 2015年2月24日火口周辺警報（入山危険）切替 2016年2月17日火口周辺警報（入山危険）切替
硫黄島		火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日火口周辺警報（火口周辺危険）
福德岡ノ場		噴火警報（周辺海域警戒）	2007年12月1日噴火警報（周辺海域警戒）

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
九州地方・南西諸島九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	九重山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	阿蘇山	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常) 2011年5月16日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2011年6月20日噴火予報(レベル1、平常) 2013年9月25日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2013年10月11日噴火予報(レベル1、平常) 2013年12月27日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2014年3月12日噴火予報(レベル1、平常) 2014年8月30日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2015年9月14日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2015年11月24日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	雲仙岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	霧島山(新燃岳)	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常) 2008年8月22日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年10月29日噴火予報(レベル1、平常) 2010年3月30日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2010年4月16日噴火予報(レベル1、平常) 2010年5月6日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2011年1月26日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2011年1月31日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2011年2月1日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2011年3月22日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2012年6月26日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2013年10月22日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	霧島山(御鉢)	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)	火口周辺警報(火口周辺危険)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2014年10月24日火口周辺警報(火口周辺危険) 2015年5月1日噴火予報(平常) 2016年2月28日火口周辺警報(火口周辺危険)
	桜島	火口周辺警報(レベル3、入山規制)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年2月3日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年2月20日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年4月8日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年7月14日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年7月28日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年8月28日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年2月2日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年2月19日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年3月2日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年3月10日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2009年4月24日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年7月19日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2010年9月30日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2010年10月13日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2012年3月12日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2012年3月21日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2015年8月15日噴火警報(レベル4、避難準備) 2015年9月1日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2015年11月25日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2016年2月5日火口周辺警報(レベル3、入山規制)
	薩摩硫黄島	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2012年11月29日噴火予報(レベル1、平常) 2013年6月4日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2013年7月10日噴火予報(レベル1、平常)

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
九州地方・南西諸島	口永良部島	噴火警報 (レベル5、避難)	2007年12月1日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2008年1月25日噴火予報 (レベル1、平常) 2008年9月4日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2008年10月27日火口周辺警報 (レベル3、入山規制) 2009年3月18日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2009年8月4日噴火予報 (レベル1、平常) 2009年9月27日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2009年10月30日噴火予報 (レベル1、平常) 2011年12月15日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2012年1月20日噴火予報 (レベル1、平常) 2014年8月3日火口周辺警報 (レベル3、入山規制) 2014年8月7日火口周辺警報 (レベル3、入山規制) 切替 2015年5月29日噴火警報 (レベル5、避難) 2015年10月21日噴火警報 (レベル5、避難) 切替
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)

注) 警報及び予報の発表履歴欄には、2007年12月1日の火山現象に関する警報・予報及び噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示しています。この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示しています。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルを示しています。

## (2) その他の活火山

以下の活火山(\*印を除く)では2007年12月1日に噴火予報(平常)を発表しました。また、\*印の活火山では、活火山として選定された2011年6月7日に噴火予報(平常)を発表しました。その後、いずれも火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火山名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山*、摩周、雄阿寒岳*、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、バルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方	高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山
伊豆・小笠原諸島	利島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

注) 2015年5月18日から(平常)は(活火山であることに留意)に変更しました。